

平成29・30年度菊陽町教育委員会指定 学力充実推進校研究発表会

自ら学びへと向かい、高め合う子どもの育成

～主体的・対話的で深い学びを目指す武小版「学びの地図」を用いた国語科学習を通して～



はじめに

本校は、平成29・30年度と菊陽町教育委員会指定「学力充実推進校」の研究指定を受け、研究主題を「自ら学びへと向かい、高め合う子どもの育成」と設定し、確かな学力の充実に向けた研究を進めてきました。

本年度は、「主体的・対話的で深い学びを目指す武小版『学びの地図』を用いた国語科学習を通して」のサブテーマをもとに、子どもたちが「どのように学ぶか」に着目することで学びの質を高めるための授業改善を図ってきました。

更に、「教師は授業で勝負する」この言葉を合い言葉に、子どもたちの学ぶ心に灯りをともす研究として全職員一体となって取り組んでまいりました。

本日は、その取組の一端をご覧いただき、ご参会の皆様の忌憚のないご意見・ご感想をいただき、今後の研究推進にいかしていきたいと考えます。

どうぞご指導・ご助言よろしくお願い致します。

菊陽町立武蔵ヶ丘小学校長 竹下 智香子

平成31年1月30日(水)
菊陽町立武蔵ヶ丘小学校

1 研究主題

自ら学びへと向かい、高め合う子どもの育成
 ～主体的・対話的で深い学びを目指す武小版「学びの地図」を用いた国語科学習を通して～

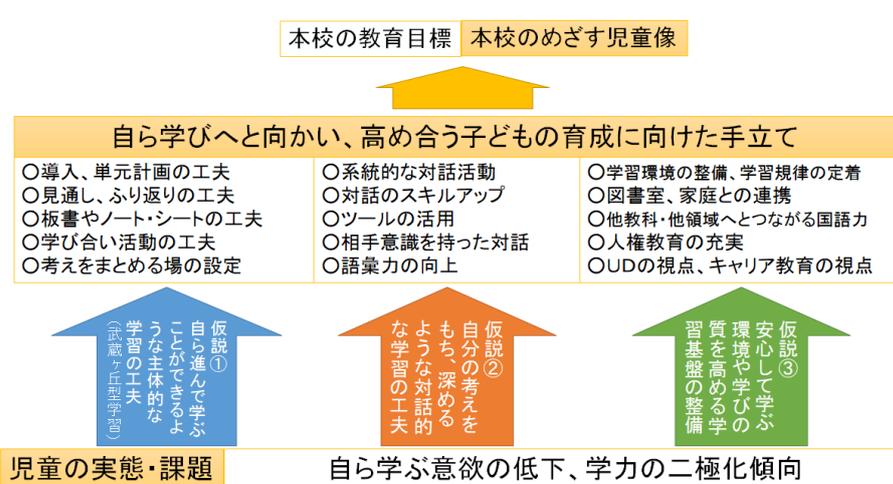
2 主題設定の理由

教育的課題より	新学習指導要領では、人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めて捉え直し、一人一人の学びを後押しできるよう、これまで改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えた改善がなされている。子どもたちが「どのように学ぶか」に着目して、学びの質を上げていくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業改善の取組を活性化していくことが必要となる。
本校教育目標より	本校の教育目標は、「ふるさとに誇りを持ち、お互いの違いを認め合い、夢に向かって生きる子どもの育成」である。めざす児童像の一つとして、「よく考え、主体的に学ぶ子ども」を掲げている。基礎的・基本的な知識・技能を生かしながら、自分の思いや考えを目的や相手に応じて具体的な発言や文章として表現できる子どもを育てるため、言語活動を支える国語力について共通理解をし、国語科を中心とした授業の充実を図ることが、本校教育目標の達成へとつながると考える。
児童の実態より	昨年度の県学力調査の結果から、本校の課題として、全体的な国語力の低下、特に全学年を通じて「読む能力」が課題であることが分かった。また、得点分布の結果から、学力の二極化傾向があらわれ、学力格差の改善が本校の課題として明らかになった。本校児童が自ら学びへと向かうことで、お互いを高め合い、学力向上へとつながるような研究のテーマを設定した。

3 研究主題について

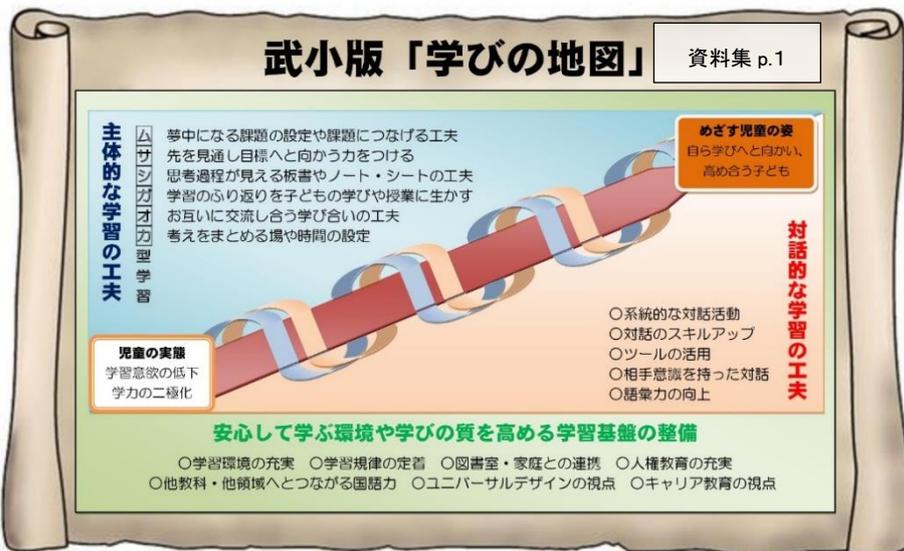
「自ら学びへと向かい、高め合う」	課題や目標に向けて主体的に取り組み、他者と協働しながら自己の資質や能力を高め、学び続けること。
「学びの地図」	子どもたちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示したもの。

5 研究の構想と「学びの地図」



4 研究の仮説

仮説①	児童が自ら進んで学ぶことができるような主体的な学習を工夫すれば、学びに向かう力を身に付けることができ、高め合うことができるだろう。
仮説②	児童が自分の考えを広げ、深めるような対話的な学習を工夫すれば、学びに向かう力を身に付けることができ、高め合うことができるだろう。
仮説③	誰もが安心して学ぶことができる学習環境や学びの質を高める学習の基盤を整えることができれば、学びに向かう力を身に付けることができ、高め合うことができるだろう。



6 研究の内容

(1) 仮説①について

【自ら進んで学ぶことができるような主体的な学習の工夫】



武蔵ヶ丘型学習

- △ 夢中になる課題の設定や課題につなげる工夫
- サ 先を見通し目標へと向かう力をつける
- シ 思考過程が見える板書やノート・シートの工夫
- ガ 学習のふり返りを子どもの学びや授業に生かす
- オ お互いに交流し合う学び合いの工夫
- カ 考えをまとめる場や時間の設定

△ 夢中になる課題の設定や課題につなげる工夫

単元追究課題の設定

単元を通して追究していく学習課題の設定

魅力的な課題を設定し、学習意欲が継続

単元の課題へとつなげる工夫

毎時間の授業と単元追究課題をつなげ、学習を積み重ねていく

ガ 学習のふり返りを子どもの学びや授業に生かす

「む・さ・し・が・お・か」のふり返し

つなげていく

● 次への学習意欲

● 次時の見通しへ

「関心・意欲」について

「学習の内容」について

「自己の変容」について

資料集 p.6

サ 先を見通し目標へと向かう力をつける

学習過程に「見通す」を入れる

学年間の系統を「見通す」に生かす

資料集 p.2-5

○全学年のおさえるべき用語を一覧表「武小の国語」にして作成

○前学年(前学期)までで使えるようになった「読む」学習で使う用語を本時の見通しへとつなげる。

学び合いの形態と目的を示す

グルーブ交流

全体交流

【目的】友達の意見を聞いて、共感するところや新しい考えを見つける

【目的】友達の意見と比較し、自分の意見の深まりや変化を意識

○その他の形態と目的例

「ペア交流」→ 意見の確認、質疑応答などの目的

「自由交流」→ 同じ意見の人と確認、討論前の作戦などの目的

シ 思考過程が見える板書やノート・シートの工夫

板書の工夫

ノート・シートの工夫

教材文を一枚のシートにまとめる

全文シートを使って考える

一時間の思考の流れに沿った板書

黒板と連動したノートで思考を整理

に教室に掲示

カ 考えをまとめる場や時間の設定

本時の中に「一人学び」を位置づける

「一人学び」のための手立て

本文を一文ずつ区切って考える

他にも、「ヒントカード」「模型」「写真」「音読の工夫」などの手立てを活用

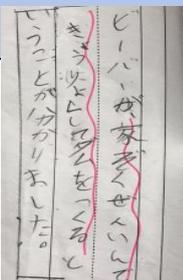
ICTを使って実物を掲示

(2) 授業の実際 1 (低学年の実際)

ア 単元の展開と武蔵ヶ丘型学習のポイント

単元名	(2年) どうぶつのひみつをみんなでさぐろう「ビーバーの大工事」	
単元追究課題	「どうぶつのひみつクイズ」大会をしよう	
㊦ 夢中になる導入や単元計画の工夫	○自分の調べたい動物を決め、「ひみつクイズ」を作るという目的のもと、問題や答えを考えるために文章を読むという活動を設定することを通して、文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、調べたことについてまとめる。	㊧ 思考過程が見える板書やノート・シートの工夫
	○毎時間ごとの板書を教室側面に掲示し、児童がこれまでの学習をふり返ったり、本時の学習に活用したりしながら、学習を進めていけるように工夫する。	

イ 本時の展開と武蔵ヶ丘型学習のポイント

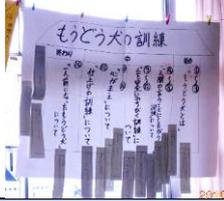
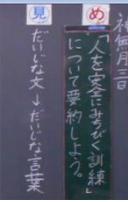
本時の目標 (4/16時)	ビーバーがダムを作る様子を大事な言葉や文に気をつけて読むことができる	
つかむ	1 前時までの学習をふり返り、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて 大きなダムを作るビーバーのひみつをみつけよう。</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">前時までの学習の足跡からふり返り、分かったことを確認する。</div>	
見通す	2 学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">前時までの学習では、ビーバーがしたことを四角で囲むことめあて達成ができたので、本時でもその方法を活用できそうだな。</div>	㊨ 先を見通し目標へと向かう力をつける 
もつめる	3 手順や様子を読み取る。 ・本文を音読する。 ・ビーバーがしたことを視覚で囲む。 【学習形態】 「一人」→「全体」	㊩ 考えをまとめる場や時間の設定 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">ビーバーがしたことを意識しながら音読し、したことを四角で囲む。そして、ビーバーがしたことについて出し合い、動作化を交えて全体で確認する。</div>  一人学びの時間
ふかめるひろげる	4 ダムを作るビーバーのことで1番頑張っていると思うところをワークシートに書く。 【学習形態】 「一人」→「ペア」 →「全体」	㊪ お互いの考えを伝え合って学び合う工夫 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">ペア交流 互いの良さを認め合いながら、相違点にも気づかせる。 全体交流 ペアでは気づけなかったことがあることや様々な気づきがあることを通して、読みを深めていく。</div>  ペア交流 →  全体交流
まとめる	5 学習のまとめをし、本時のふり返りを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">児童Fのふり返り「ビーバーが家ぞくぜんいんできょうりょくしてダムをつくるということが分かりました。」</div>	㊫ 学習のふり返りを学びや授業に生かす  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">授業で分かったこと等をふり返らせ、次時へとつなげる。</div>

(3) 授業の実際2 (中学年の実践)

ア 単元の展開と武蔵ヶ丘型学習のポイント

単元名	(3年) はたらく犬について調べよう「もうどう犬の訓練」	
単元追究課題	はたらく犬について調べたことをリーフレットにまとめておうちの人に紹介しよう	
㊦ 夢中になる導入や単元計画の工夫	<p>○調べたことをリーフレットにまとめる活動を設定することで、単元の学習を通して必要な情報を集めて、要約する力を育てる。</p> 	㊩ 思考過程が見える板書やノート・シートの工夫
	<p>○教材文全体の構成を捉えやすくするために、本文を一枚のシートにまとめた全文シートを活用し、さらに視点を絞るために、各時間で使う本文を載せた学習シートを活用する。</p> 	

イ 本時の展開と武蔵ヶ丘型学習のポイント

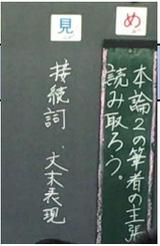
本時の目標 (5/12時)	人を安全に導く訓練について読み取り、大事な言葉や文を使って要約することができる。	
つかむ	<p>1 これまでの学習をふり返し、めあてをつかむ。 構成図から本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて 「人を安全にみちびく訓練」について要約しよう。 </div>  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 前時の学習の流れをふり返し、構成図とホワイトボードで学習内容を確認する。 </div>	
見通す	<p>2 学習の見通しをもつ。 これまでの学習をふり返し、めあてにつながる学習活動や方法を考えた。</p>	㊴ 先を見通し目標へと向かう力をつける <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px;"> 「大事な文」や「大事な言葉」に注目することが、要約するための手立てになるよね。 </div> 
めしめる	<p>3 大事な文を読み取る。 ・本文9～12段落を音読する。 ・大事な文に線を引く。 【学習形態】 「一人」→「全体」</p>	㊵ 考えをまとめる場や時間の設定 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px;"> 本時で使う本文だけに絞ったシートを使うことで、読み取りをしやすくした。また、大事な文が2つあることを伝えることで、線を引く手立てとする。 </div>  <p style="text-align: center;">一人学びの時間</p>
ふかめる ひらける	<p>4 要約する。 ・大事な文や言葉を使って要約する。 ・要約した文について意見を交流する。 【学習形態】 「一人」→「全体」</p>	㊶ お互いの考えを伝え合って学び合う工夫 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px;"> 「つなぎ言葉」の活用の工夫や大事な言葉の使い方などに着目し、より分かりやすいリーフレット作りへとつなげていく。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="font-size: 2em; color: blue;">➔</div>  </div> <p style="text-align: center;">一人学びの時間 全体交流</p>
まよめる	<p>5 学習のまとめをし、本時のふり返しを行う。</p>	㊷ 学習のふり返しを学びや授業に生かす <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px;"> 授業で分かったことから要約で外せない言葉を確認し、つなぎ言葉を活用して要約文がより分かりやすくなることをふり返って、次時の授業へとつなげる。 </div> 

(4) 授業の実際3 (高学年の実践)

ア 単元の展開と武蔵ヶ丘型学習のポイント

単元名	(6年) 町の未来をえがこう「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」	
単元追究課題	保護者の方に「未来の菊陽町」をプレゼンテーションしよう	
㊦ 夢中になる導入や単元計画の工夫	㊩ 思考過程が見える板書やノート・シートの工夫	
○単元の学習を通して、プレゼンテーションを行うために必要な情報を集める力を育てる。		○単元シートで、学習の積み重ねが追究課題へとつながっていることを意識させ、学習への関心を持続させる。 ○児童が教材文全体の構成を捉えやすくするために、本文を一枚のシートにまとめた全文シートを活用する。

イ 本時の展開と武蔵ヶ丘型学習のポイント

本時の目標 (4/14時)	本論2での筆者の主張を読み取り、バックキャストの効果を理解することができる。	
つかむ	<p>1 前時までの学習をふり返り、めあてをつかむ。 前時の学習をふり返り、本論1の筆者の主張(主体的に町づくりに取り組む)について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて 本論2の筆者の主張を読み取ろう。</div>	 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin-top: 10px;"> 前時の学習の流れをふり返り、ホワイトボードに本時の学習の流れを掲示する。 </div>
見通す	<p>2 学習の見通しをもつ。 これまでの学習をふり返り、めあてにつながる学習活動や方法を考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #d9e1f2; text-align: center;"> サ 先を見通し目標へと向かう力をつける 「接続詞」や「文末表現」に注目することが、筆者の主張を読み取る手立てとなるね。 </div> 
まとめる	<p>3 筆者の主張を読み取る。 ・本論2を音読する。 ・筆者の主張をまとめる。 【学習形態】 「一人」→「全体」</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #d9e1f2; text-align: center;"> カ 考えをまとめる場や時間の設定 </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin-top: 10px;"> 音読により筆者の主張が書かれているところを意識させ、まずは自分の力で本論2の主張をノートにまとめる。 </div> 
ふかめるひろげる	<p>4 資料について考える。 ・バックキャスト法の効果を考える。 ・菊陽町の未来のイメージを実際に描く。 【学習形態】 「グループ」→「全体」</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #d9e1f2; text-align: center;"> オ お互いの考えを伝え合って学び合う工夫 </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin-top: 10px;"> バックキャスト法を使って町のイメージをグループで共有することで、効果を確認し、単元追究課題のプレゼンへとつなげる。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>グループ交流</p> </div> <div style="font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <div style="text-align: center;">  <p>全体交流</p> </div> </div>
まとめる	<p>5 学習のまとめをし、本時のふり返りを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin-top: 10px;"> 児童Yのふり返り「キーワードを見つけたので、本論と結論でも見つけて、学習に生かしたい。」 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #d9e1f2; text-align: center;"> カ 学習のふり返りを学びや授業に生かす </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin-top: 10px;"> 授業で分かったこととともに、学習の過程についてもふり返らせ、次時の授業へとつなげる。 </div>

(5) 仮説②について

【自分の考えをもち、
深めるような対話的な
学習の工夫】



対話のスキルアップ【武小タイムの取組】

「武小タイム」とは

- 対話活動のスキルアップ
- 授業での対話活動(学び合い)へとつなげる

目的

【一学期】対話の仕方・進め方を身に付ける
【二学期以降】詩や教材の音読、内容についての課題の考察と交流

資料集 p.11-13

各学年の教材「詩」と課題の一覧表

学年	教材	課題
1年	あひるのうた	あひるのうたのイメージを言葉で表現する。
2年	うさぎのうた	うさぎのうたのイメージを言葉で表現する。
3年	うさぎのうた	うさぎのうたのイメージを言葉で表現する。
4年	うさぎのうた	うさぎのうたのイメージを言葉で表現する。
5年	うさぎのうた	うさぎのうたのイメージを言葉で表現する。
6年	うさぎのうた	うさぎのうたのイメージを言葉で表現する。

資料集 p.8-10

武小タイムの流れと進め方

系統的な対話活動

各学年における対話活動

学年	対話活動
1年	話し合いの活動
2年	話し合いの活動
3年	話し合いの活動
4年	話し合いの活動
5年	話し合いの活動
6年	話し合いの活動

「武小タイム」や「学び合い活動」へとつなげる

例「低学年」自分の考えを友達に伝え合う
例「高学年」自分の立場ごとに集まって話し合う

資料集 p.7

語彙力の向上

対話的な学習へとつながる語彙力の向上

友達の意見を確認し、自分の意見を発表する

ツールの活用

例① ホワイトボードを使って、グループの意見をまとめる

例② 付箋を使って課題を可視化し、対話を活性化

例③ 思考ツール(ウェブマップ)を使って課題の解決を話し合う

相手意識を持った対話

A「よろしくお願ひします。」「わたしは、～だと思ひます、どうですか。」

B「いいと思ひます。」「わたしは、～だと思ひます、どうですか。」

「〇〇さんは、～と言ひましたよね。私は、その意見を聞いて～」

友達の意見を確認し、自分の意見を発表する

(6) 仮説③について

【安心して学ぶ環境や
学びの質を高める学習
基盤の整備】



学習規律の定着・家庭との連携

学習規律について

例 始業前の黙想タイム

午前と午後の始業前に黙想を行うことで、気持ちを落ち着けて授業にのぞむことができる。

資料集 p.17

家庭学習の手引き

資料集 p.18-19

図書室との連携

「〇〇のいのち」シリーズを全校に推薦しよう

図書室と連携し、単元追究課題で作成した作品(ポップ)を掲示

学習環境の充実

教室掲示

学年掲示版

広がる国語力

国語の授業で身につけた力

全校集会での意見交流

町の集会での意見交流へとつながる

人権教育の充実

指導案に支援を要する児童を明記し、授業研で注視しい。

誰もが安心して授業にのぞむことができる環境づくり

UDの視点

ユニバーサルデザイン(UD)の視点

資料集 p.20

キャリア教育の視点

学習指導案の中に、単元を通じたキャリア教育の視点と本時におけるキャリア教育の視点を明記することで、自らの生き方へとつながっていることを意識させる。

7 研究の成果（○）と課題（●）

（1）児童の実態より

県学力調査の結果より	<p>○観点別の平均点において各学年の県との比較を見ると、読む観点に関して差が縮まるなど、「読む能力」の課題が改善してきている。</p> <p>○29年度と30年度の得点分布（4～6年）の結果（図1）から、課題であった学力格差の傾向が解消されつつある。</p> <p>●県学力調査結果の観点別の項目によっては取組の成果が見られるが、全体的な国語力の向上に関しては、引き続き取組を続けていかなければならない。</p>
児童アンケートより	<p>○学習過程に「見通し」と「ふり返し」を位置づけてきた結果、めあてに対して見通しを持って授業にのぞむことができるようになった児童や学習のふり返しを次の授業へと生かすことができる児童が増えてきた（図2）。</p> <p>●対話活動の重要性は感じているものの対話のスキルに自信がない児童が少なくない。</p>

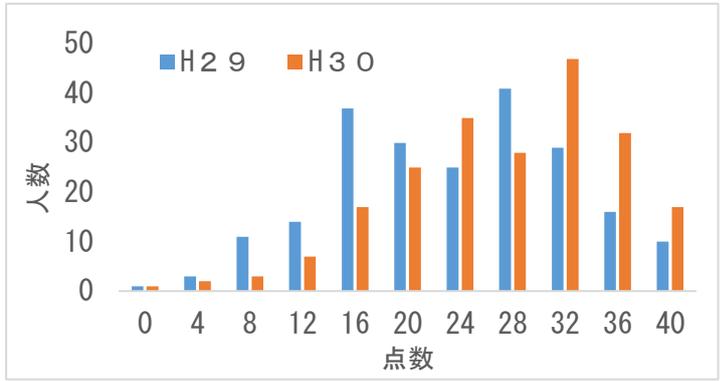


図1 H29・H30県学力調査(国語)の得点分布

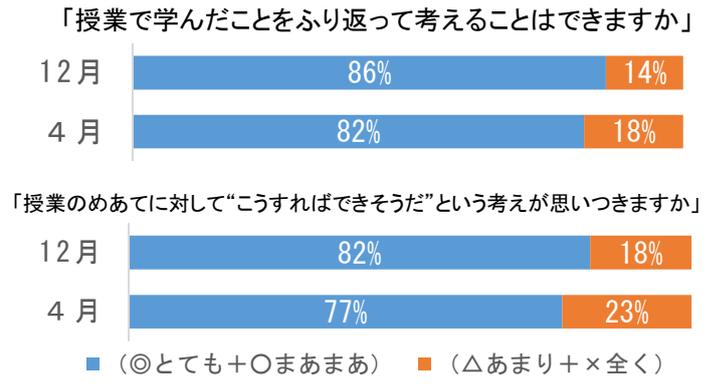


図2 「見通し」と「ふり返し」に関する児童アンケートの結果

（2）仮説より

仮説①	<p>○主体的な学習の工夫に関して、「武蔵ヶ丘型学習」という視点を明確にして学習を進めてきたことで、国語力の定着を図り、学習意欲を持続させることができた。</p> <p>●主体的な学習から深い学びへと意識を広げ、自ら学ぶ力がどのように深い学びへとつながっていくのかについて研究を深めたい。</p>
仮説②	<p>○対話を通して学び合う姿のイメージを共有し、授業へとつながる対話のスキルアップや語彙力の向上、ツールの活用を工夫することで、自分の考えをもち、深めていくことができるようになった。</p> <p>●自分の考えを持つだけでなく、友達の考えを比べ、共感し、新しく考えたりすることができるような対話活動を意識していきたい。</p>
仮説③	<p>○語彙力をはじめとした国語力の土台を固め、安心して学ぶ環境を整備し、他教科や他領域へと広げていくことで、学びの質を高めることができた。</p> <p>●さらに家庭・地域との連携を進めることで、学習の基盤をより強固にし、学習の質を高めていきたい。</p>

おわりに

本校では、これまでの研究の成果と課題をもとに武蔵ヶ丘小オリジナルの学習モデルの確立、誰が実践しても同じように教育効果を上げることができる授業方法の開発等を目標に研究を進めてきました。

研究を進めるにあたり、まず武小版「学びの地図」をもとに研究の方向性を共通理解した上で、共通実践を重ねてきました。本研究を通して、児童が意欲的に授業に参加し、自分の考えを進んで発表したり、その発表を熱心に聞き応答したりする姿や、班学習の中でお互いの考えを練り上げたりする様子がどの学級でも見られるようになってきたことは、確かな成果だと言えます。

最後になりましたが、これまでご指導とご支援を賜りました菊池教育事務所、菊陽町教育委員会をはじめ、研究の助言をいただきました助言者の先生方に心からお礼申し上げます。